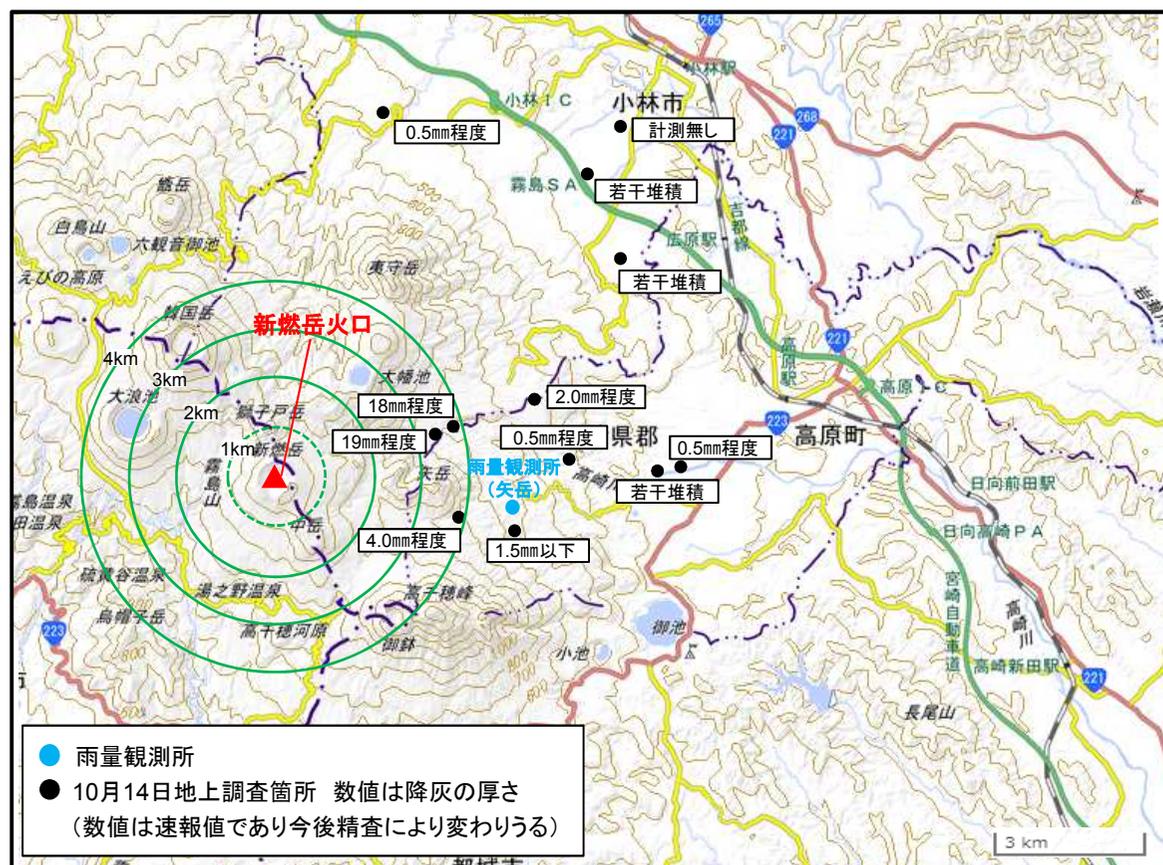


平成29年10月霧島山(新燃岳)噴火に伴う対応

平成29年10月16日
砂防部

- 霧島山(新燃岳)で10月11日05時34分頃噴火が発生し、同日11時05分に噴火警戒レベルが2から3へ引き上げられた。また、15日19時に警戒範囲が火口から概ね2kmから3kmに拡大された。
- 霧島山周辺の降灰状況を把握するため、九州地方整備局がヘリによる上空からの調査を10月11日に実施したほか、地上からの現地調査を同日から実施中。
- 14日からの降雨では、最大1時間雨量9mm、累積雨量70mmを矢岳観測所で観測したが、土石流は非発生。
- これまでのところ、火口付近に火山灰の堆積が認められたものの、山麓に厚い火山灰の堆積は見られず、少ない雨量で人家に被害をもたらすような土石流発生のおそれはないことを確認した。



上空からの降灰状況の確認(撮影:アジア航測)



現地調査により採取した火山灰

霧島山(新燃岳)における降雨による火山灰の堆積状況の変化

○ 10月13日17時頃 火山灰堆積状況



河床における火山灰の堆積状況（黄色の枠内）



砂防堰堤での火山灰の堆積状況（黄色の枠内）

○ 10月16日14時頃 降雨による火山灰流出状況



降雨により河床の火山灰は流出したが、土石流は非発生



降雨により砂防堰堤の火山灰は流出したが、土石流は非発生